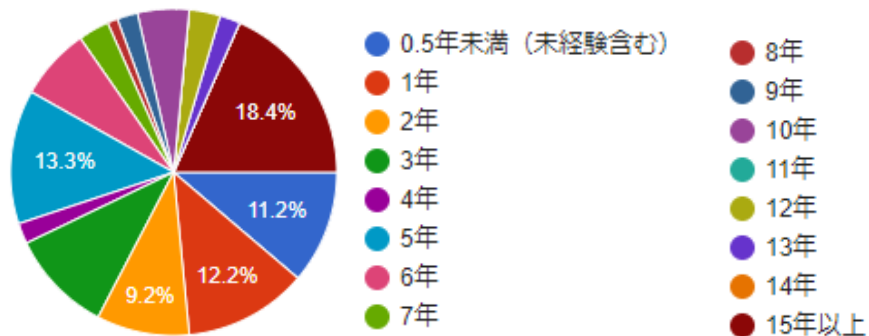


2020 年度 生物化学分析検査研究班 2 月研究会アンケート集計結果

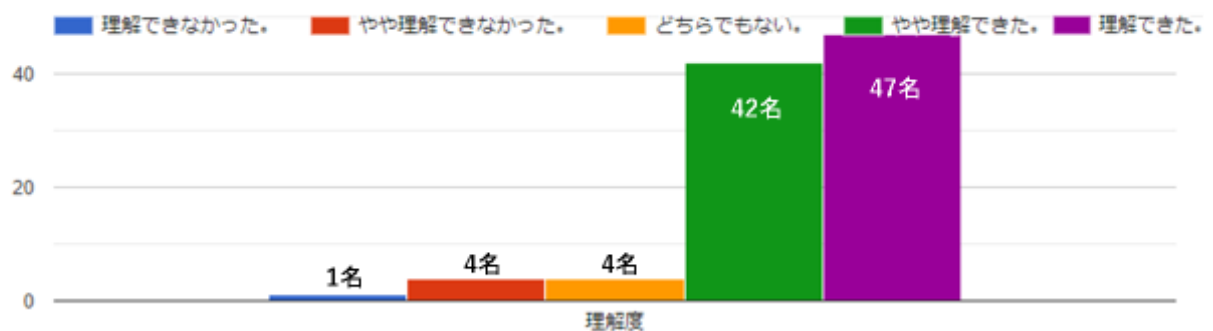
作成日：2021 年 3 月 22 日

臨床化学・免疫検査経験年数



本研究会に参加された方々の『臨床化学・免疫検査の経験年数』を調査しました。
「15 年以上：18.4%」と最も高く、続いて「5 年：13.3%」、「1 年：12.2%」、「0.5 年未満（未経験含む）：11.2%」、「3 年：10.2%」、「2 年：9.2%」、「6 年：7.1%」でした。

アンケート 1)「精度管理の基礎～実践」について



98 名のご参加（レポート回答）をいただき「理解できた：47 名」、「やや理解できた：42 名」と多くの方々にご理解いただきました。

アンケート 2) 本研究会のどのような点が特に役に立ちましたか。(一例)

- ☆ 精度管理についてあらためて学ぶことができて、普段行っている精度管理の大切さが分かりました。
- ☆ 内部精度管理のターゲット値や管理幅の選定方法について分かりやすく解説していただき、今後の教育時の参考になりました。
- ☆ 他施設の ALP/LD 測定試薬の IFCC 標準化対応法への移行状況や TSH 値のハーモナイゼーションについての取り組みについて把握できた。

アンケート 3) その他ご意見 (一例)

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り一部ご回答させていただきます。

ご意見①：Web 視聴による研究会は有意義だと思います。今後、現地参加型に戻っても定期的に実施してほしいです。

回答①：ご評価いただきありがとうございます。現地開催より交通費や時間の負担が少ない点、何度も視聴可能な点など、同様のご意見を数多くいただきました。今後（コロナ終息後も）定期的な Web 配信の導入も検討させていただき、より多くの方々へ情報発信できるよう努めてまいります。

ご意見②：ALP (IFCC) における小児での測定値に変動はあるのか、また変動するとしたら JSCC とどのくらい異なるのか気になります。全国的にまだデータは集まりづらいところですが、今後データが揃い次第発表があったら参考にさせていただきたいです。

回答②：標準化の動向とあわせて、今後の研究会テーマとしても検討していきたいと存じます。ご参考までに日本臨床化学会 HP に「変更後の基準範囲について※1」がございますので、ご一読下さい。

※1：日本臨床化学会 HP（2021 年 3 月 24 日時点）<http://jscc-jp.gr.jp/>

「ALP、LD の測定方法の変更に際するご案内」にある PDF をご覧ください。

ご意見③：講演資料を入手できるようにしてほしい。

回答③：今後の研究会の課題として、前向きに検討させていただきます。

まとめ

2020 年度は 12 月講演会に続き、2 月研究会も Web 配信にて実施させていただきました。ベテランの方はもちろんですが、経験年数の浅い方々にも興味を持っていただき、ご視聴いただけたことを嬉しく思っております。Web 配信により、日常の検査業務において臨床化学・免疫検査を行っていない方々にも参加していただけたことと思います。今後も継続的に Web 配信を取り入れていくことを検討しています。

今回の研究会では、2020 年度愛臨技精度管理報告をテーマに掲げ、臨床化学、免疫血清それぞれ精度管理調査の解析結果報告をいたしました。加えて「精度管理の基礎～実践」では、自施設での日常の精度管理を振り返りながらご視聴いただけたのではないのでしょうか。

今回の研修会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いに存じます。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先

生物化学分析検査研究班

(一社) 半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部 青木 岳史

TEL : 0569-27-7882 / E-Mail : c1937_aoki@handa-med.jp